

「延世大学校派遣参加報告書」

京都大学経済学部 1 回生 吉野 葵

- ① 今回の留学をきっかけに多くの人と出会い、刺激をもらったり新しい価値観に触れたりすることができました。韓国人と接する機会はプログラム中に何度もありましたが、韓国語がうまく話せないせいでコミュニケーションをとれずもどかしくなる場面がいくつもあったので、まずは自分の言いたいことをきちんとと言えるようになるまで、これからも韓国語の勉強を欠かさず続けていきたいと思いました。さらに、わたしは英語圏の人とも接する機会が多くあったのですが、英語ができないためにコミュニケーションをうまく取れず、非常に残念な思いをしました。そのため、英語もまた勉強しなければいけないと痛感しました。今は英語圏への留学を計画しています。
- ② 基本的に毎日授業が終わるとどこかへ出かけていました。延世大学生一人がバディとしてついてくれて、その人が積極的にいろいろな所へつれて行ってくれる人だったので、何度も韓国語をしゃべってみる機会に恵まれ、有意義な時間を過ごすことができました。また、延世大学生とディスカッションする機会もありました。ここでは英語を使用しての議論でしたが、やはり韓国の学生は日本の学生よりも英語を使いこなしていると感じました。ディスカッション後には一緒に夜ご飯を食べ、仲良くなることができました。
- ③ プログラム内容は、主に平日の午前中は延世大学校の語学堂で韓国語の勉強をし、午後からは各自バディと出かけたり、現地で仲良くなったクラスメイトと遊びにいたり、延世大学のサークルの新歓に行っている人もいました。
- ④ 留学中に、つたないながらも自分の韓国語や英語が伝わるととてもうれしくて、外国語でコミュニケーションをとることのたのしさに気付きました。私自身語学の勉強をするのは苦ではないので、英語または韓国語を活かせる仕事につけたらいいなと思いました。それだけでなく、語学堂には本当に様々な境遇の人がいて、仕事を辞めて語学堂に来た人、スポーツ選手、俳優のたまごなど、きっと京都で普通に生活していたら出会わなかったであろう人たちと話すことができました。正直今までわたしは、なんとなく大学に入学して、そのあともそれなりの企業に就職できればいいかなと、安直に考えていました。しかし、大学に行ったからといって企業や銀行に就職しなくていいし、社会人になったあともいくらでも方向転換はできる、選択肢はいくらでもあるのだと、さまざまな背景をもった人たちと接する中で思いました。